

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年8月5日



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード : **3107**)

2026年3月期 第1四半期（2025年4月1日～2025年6月30日）

販売伸長と収益性改善が業績を拡大 連結業績予想を上方修正

ITインフラ 流通事業

- 中堅・中小企業向けに本格化したWindows10更新需要を着実に獲得。収益性が改善したことで1Q最高の売上高と営業利益を更新
- iKAZUCHI(雷) は、PC更新時のクロスセル提案による実績拡大で高成長を継続
- GIGAスクール第2期は、昨年度末以降に入札・受注した案件の納入が始まる

産業機械事業

- 工作機械部門において大型機の売上計上、また工作機械・自動機械両部門におけるサービス体制強化が収益性向上に寄与し増収増益
- 主力となる航空機業界を始め、国内の受注状況は回復傾向

株主還元

- 6月19日に上限80億円の自己株式取得を発表（期間：2025年7月1日～2026年2月27日）

関税の影響

- 米国の相互関税とそれに伴う為替変動の影響について、直接的な影響は受けにくいと想定しているものの、間接的な影響も含めて今後の状況を注視

2026年3月期 2Q累計業績予想 <上方修正>

(百万円)	2024/9 (①実績)		2025/9 (期初予想)		2025/9 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
売上高	517,383		625,800		640,000		+122,616	+23.7%
ITインフラ流通	511,053		619,600		633,800		+122,746	+24.0%
産業機械	6,329		6,200		6,200		△129	△2.0%
営業利益	13,522	2.6%	16,870	2.7%	21,900	3.4%	+8,377	+62.0%
ITインフラ流通	13,170	2.6%	16,450	2.7%	21,480	3.4%	+8,309	+63.1%
産業機械	348	5.5%	420	6.8%	420	6.8%	+71	+20.6%
経常利益	13,839	2.7%	17,020	2.7%	22,050	3.4%	+8,210	+59.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	9,474	1.8%	11,700	1.9%	15,100	2.4%	+5,625	+59.4%
1株当たり 中間純利益 (円)	102.52		130.26		168.38		+65.85	

修正理由

第2四半期についてもWindows10サポート終了とGIGAスクール第2期によるPC需要が継続する見通しのため、第2四半期累計期間の業績予想を修正

2026年3月期 通期業績予想

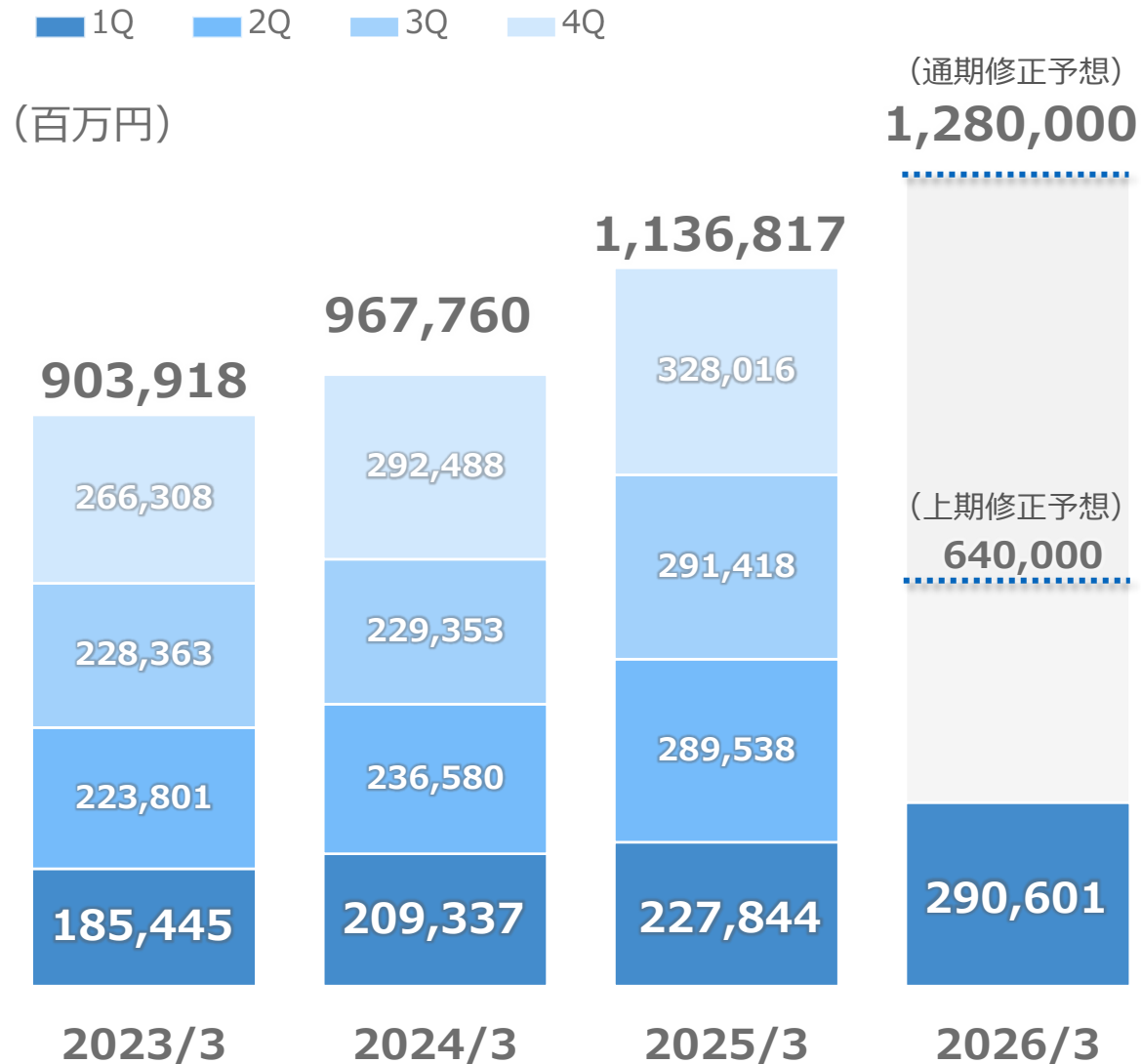
<上方修正>

(百万円)	2025/3 (①実績)		2026/3 (期初予想)		2026/3 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
売上高	1,136,817		1,265,800		1,280,000		+143,182	+12.6%
ITインフラ流通	1,123,922		1,254,000		1,268,200		+144,277	+12.8%
産業機械	12,895		11,800		11,800		△1,095	△8.5%
営業利益	34,899	3.1%	38,500	3.0%	43,530	3.4%	+8,630	+24.7%
ITインフラ流通	34,045	3.0%	37,800	3.0%	42,830	3.4%	+8,784	+25.8%
産業機械	852	6.6%	700	5.9%	700	5.9%	△152	△17.9%
経常利益	35,454	3.1%	38,800	3.1%	43,830	3.4%	+8,375	+23.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	24,751	2.2%	26,700	2.1%	30,100	2.4%	+5,348	+21.6%
1株当たり 純利益 (円)	271.37		297.26		335.73		+64.36	

修正理由

第2四半期累計期間の業績予想修正に伴い、通期連結業績予想を修正
下期（25年10月～26年3月末期間）の業績予想は変更なし

2026年3月期 1Q累計 売上高



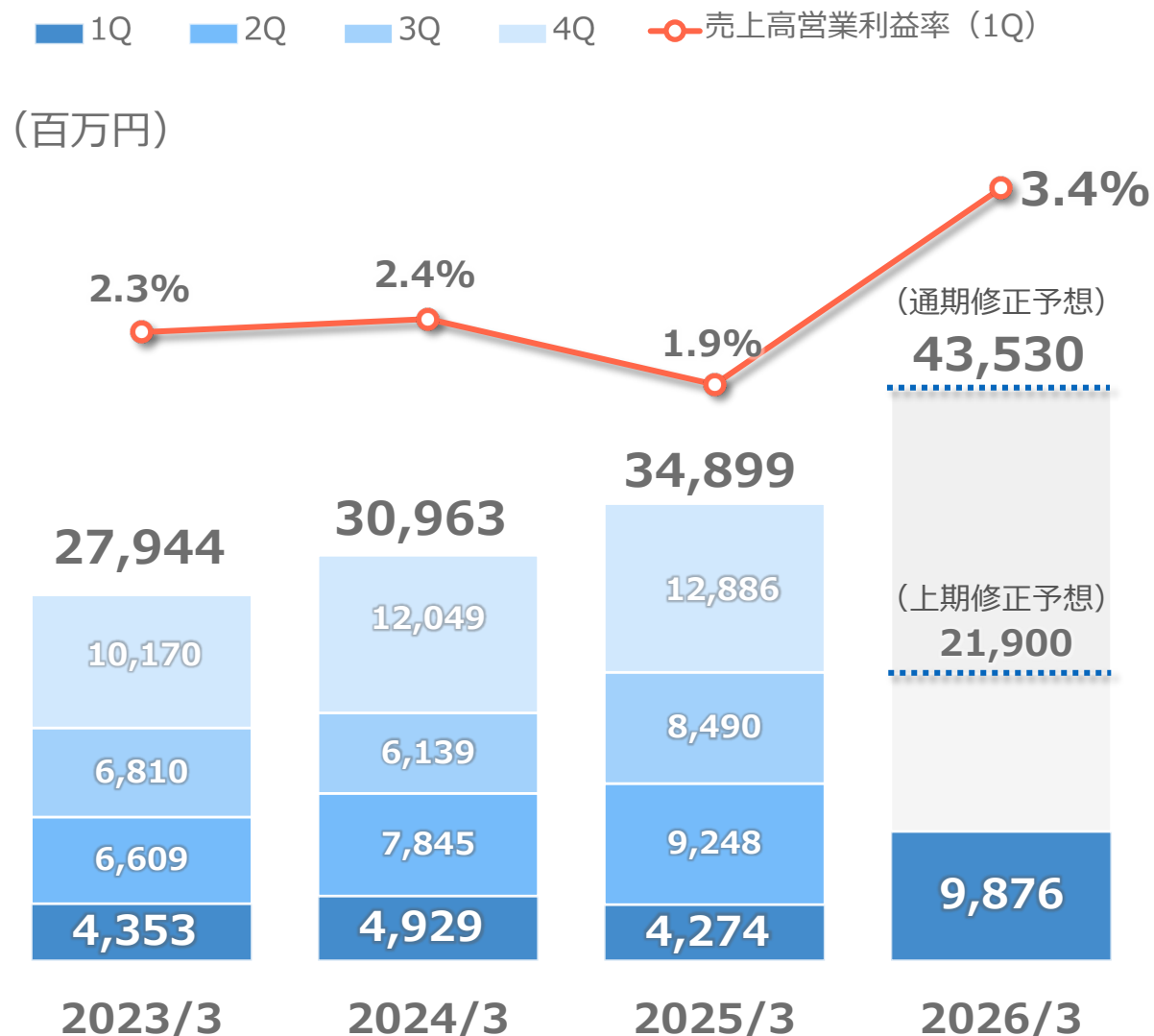
売上高 **290,601**百万円

前期比 + **27.5%**

進捗率 上期 **45.4%** / 通期 **22.7%**

1Q最高売上高を更新

2026年3月期 1Q累計 営業利益



営業利益 **9,876**百万円

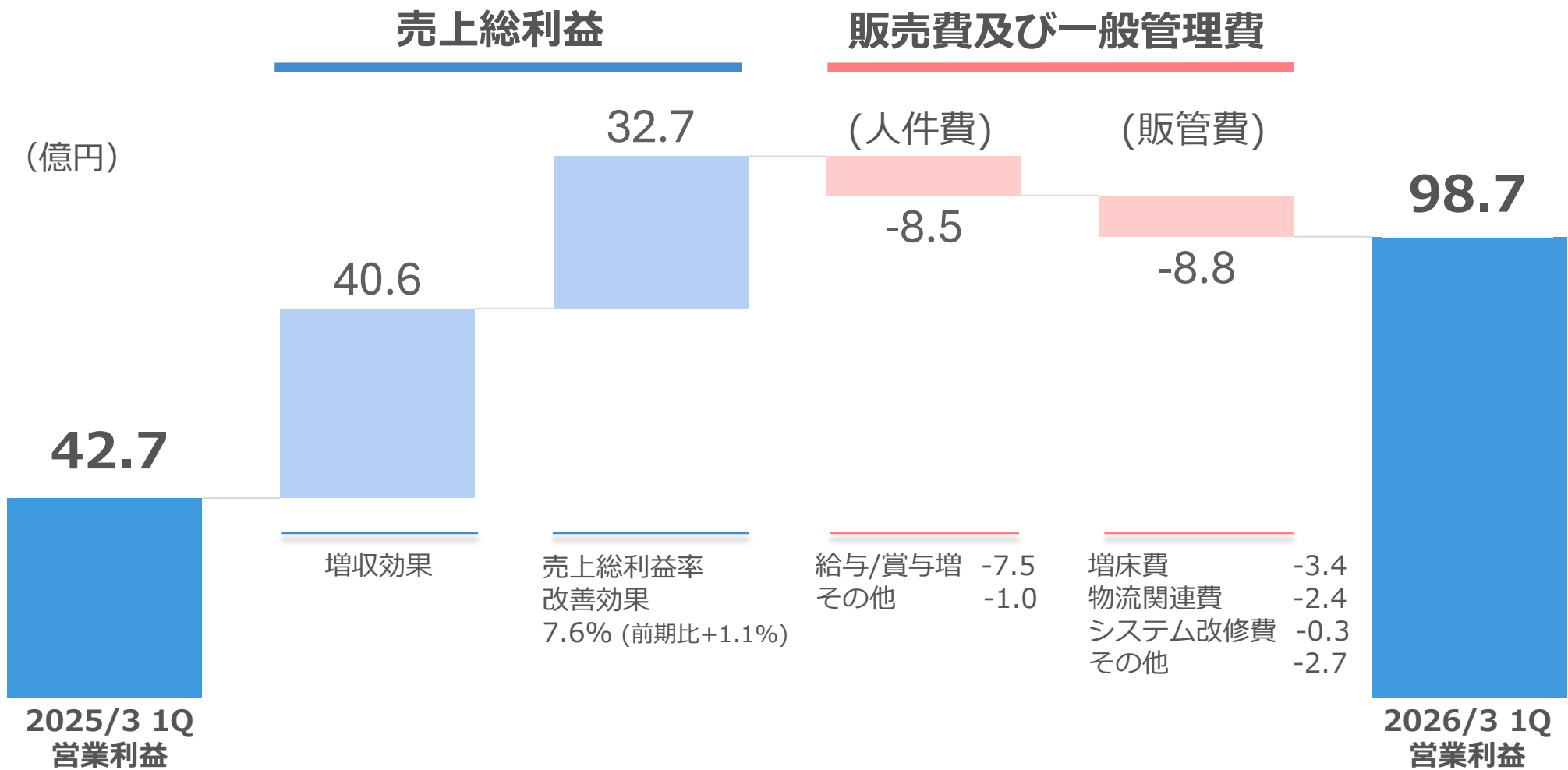
前期比 + **131.1%**

営業利益率 **3.4%**

進捗率 上期 **45.1%** / 通期 **22.7%**

営業利益率が改善し
1Q最高営業利益を更新

営業利益 推移（1 Q実績）



売上高伸長と売上総利益率改善が販管費の増加を上回った結果、1 Qとして過去最高の営業利益を更新

2026年3月期 1Q累計 連結決算概況

(百万円)	2025/3 1Q	2026/3 1Q	増減	前期比	上期計画	進捗率
売上高	227,844	290,601	+62,757	+27.5%	640,000	45.4%
営業利益	4,274	9,876	+5,602	+131.1%	21,900	45.1%
経常利益	4,528	10,111	+5,582	+123.3%	22,050	45.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,079	7,195	+4,115	+133.7%	15,100	47.6%
1株当たり 四半期純利益 (円)	33.06	80.19				

(百万円)	2025/3	2025/6	増減	主な増減理由
総資産	440,122	420,315	△19,807	現預金及び売上債権等の減少
純資産	152,310	154,623	+2,313	利益剰余金等の増加
自己資本比率	34.6%	36.8%		

2026年3月期 1Q累計 セグメント別業績

(百万円)		2025/3 1Q	2026/3 1Q	率	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	226,058	286,734		+ 60,676	+ 26.8%
	産業機械	1,786	3,866		+ 2,080	+ 116.5%
	合計	227,844	290,601		+ 62,757	+ 27.5%
営業利益	ITインフラ流通	4,358	9,492	3.3%	+ 5,133	+ 117.8%
	産業機械	△87	379	9.8%	+ 466	—
	(調整額)	2	4		+ 1	+ 69.0%
	合計	4,274	9,876	3.4%	+ 5,602	+ 131.1%

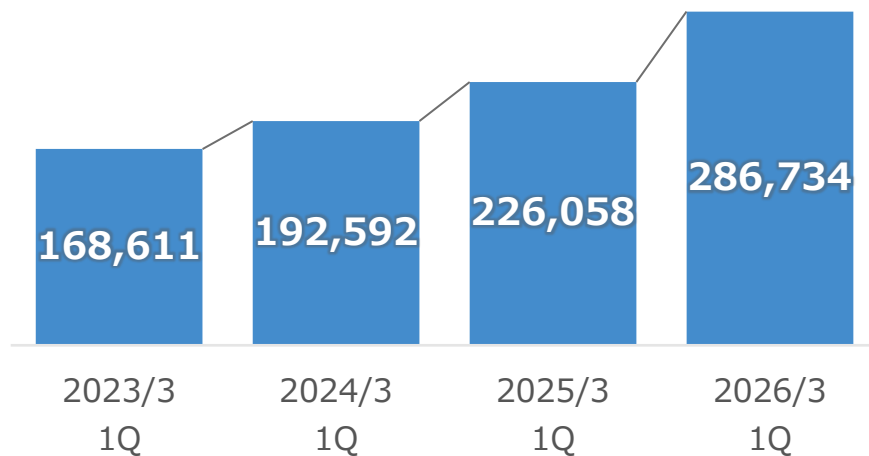
売上高

両セグメントとも販売実績の伸長による増収

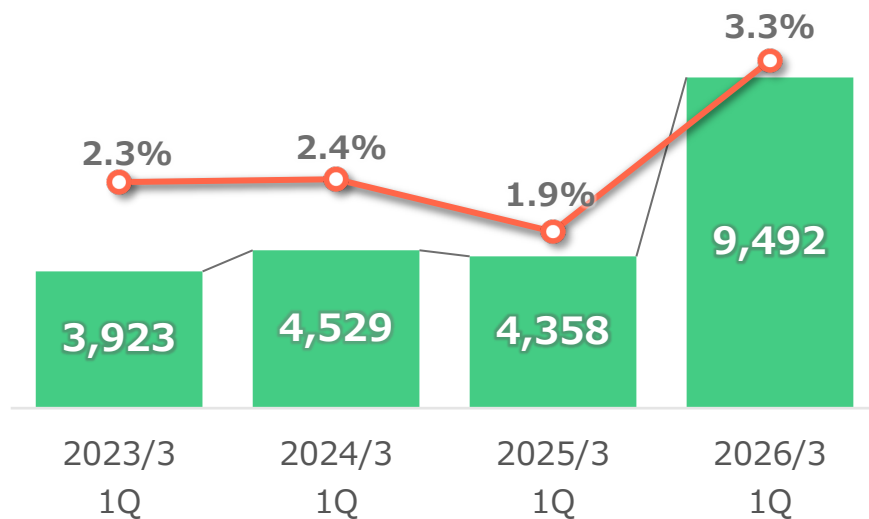
営業利益

ITインフラ流通事業は増収効果と、営業利益率改善による増益
産業機械事業は増収効果と、収益性の高いサービス売上伸長による増益

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



取扱高 ※旧基準売上高

307,939百万円 (前期比+**25.4%**)

売上高

286,734百万円 (前期比+**26.8%**)

営業利益

9,492百万円 (前期比+**117.8%**)

PC出荷台数

119.9万台 (前期比+**74.0%**)

サーバー出荷台数

1.26万台 (前期比+**6.7%**)

iKAZUCHI(雷)取扱高

12,953百万円 (前期比+**32.8%**)

事業概況

コーポレート 向け市場

- 企業向けは、PCを中心に中小型案件を多数獲得し、売上高の伸長と利益率改善に貢献
- 官公庁・自治体向けは、前年の大型IT整備案件の反動があったものの、地方公共案件の増加により前年を上回る
- 文教向けは、GIGAスクール第2期の共同調達による納入が始まる

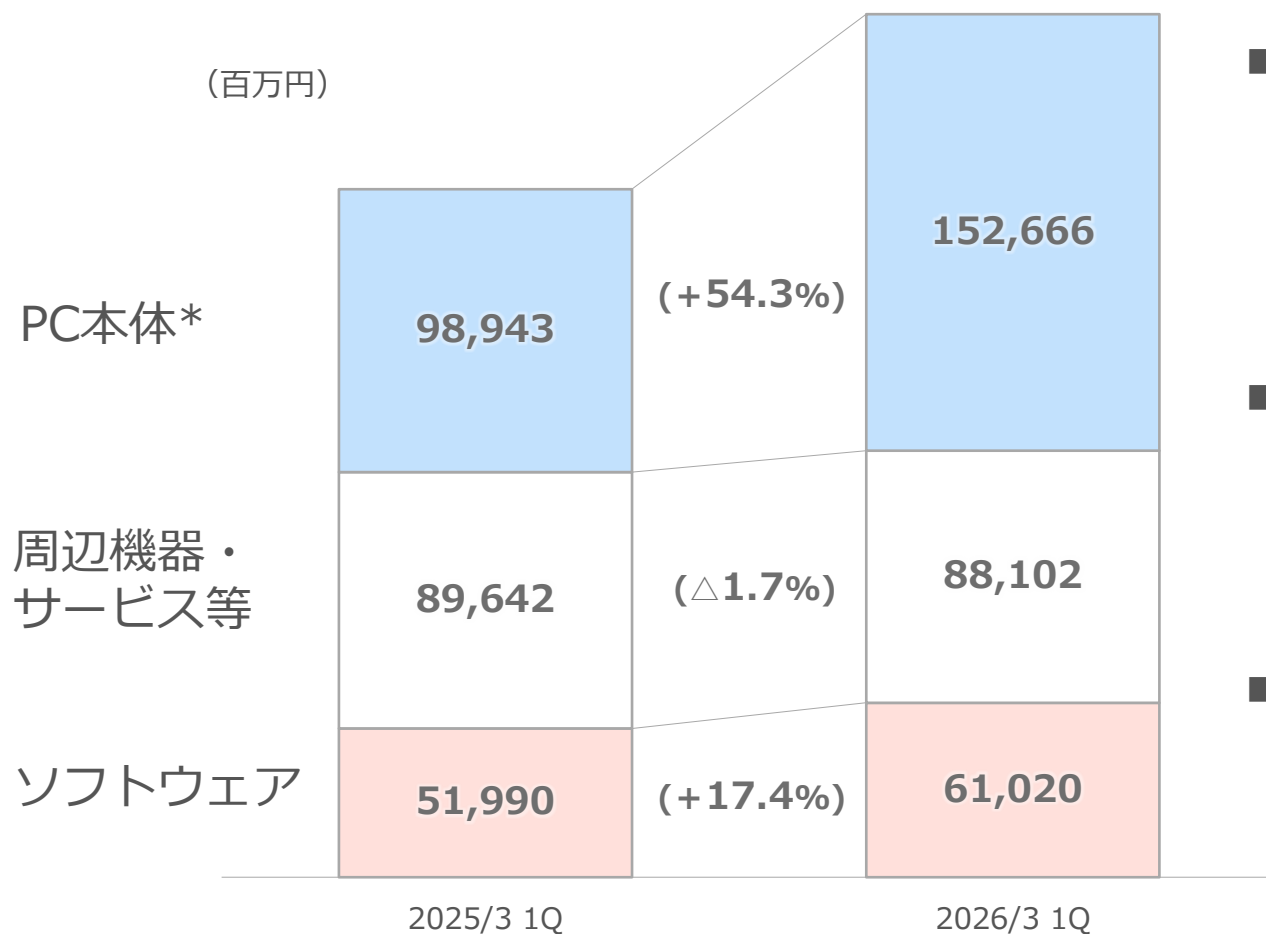
コンシューマ 向け市場

- 量販店向けにWindows更新やAI PCの店舗展開を強化し、コンシューマ全体で前年売上高を上回る

※「取扱高」の定義についてはP26に記載しています。

商品カテゴリ別実績（1Q）

＜DISカテゴリ別取扱高推移＞



*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体
() カッコは前年同期比較

2026年3月期1Qハイライト

■ PC本体等

- Windows更新需要のPC出荷（+57.5%）と、GIGAスクールによるタブレット出荷（+93.1%）を含め前期比で大幅に増加
- サーバーはデータセンター等のITインフラ構築案件を中心に増加（+15.3%）

■ 周辺機器・サービス等

- 昨年獲得した大型案件の反動によりネットワーク（△16.1%）、ストレージ（△23.6%）が減少
- Windows更新需要やGIGAスクールにより、サービス&サポート（+14.4%）、サプライ等（+10.7%）が伸長

■ ソフトウェア等

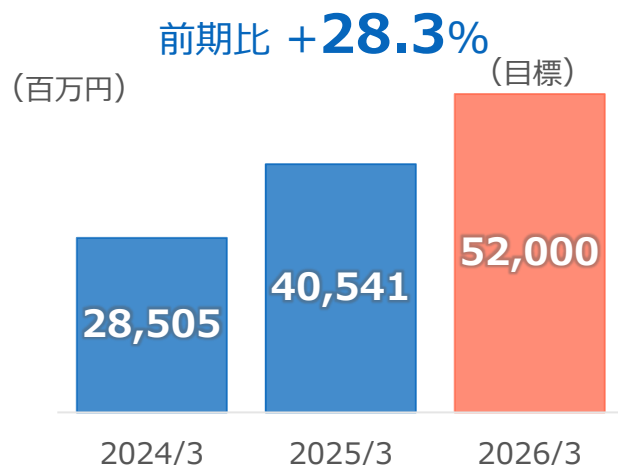
- iKAZUCHI(雷)取扱高 +32.8%
- PC増加によるMicrosoft365のクロスセル提案やGIGAスクールでのソフトウェア購入により、クラウドサービスの実績が伸長
- IaaS関連サービス（AWS、Azure等）も継続的に拡大

iKAZUCHI（雷） 経由の取扱高

iKAZUCHI(雷)を利用した取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた
販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）

取扱高目標**520億円**



対応ベンダー・サービス数

136ベンダー

258サービス
(2025/6)

サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化

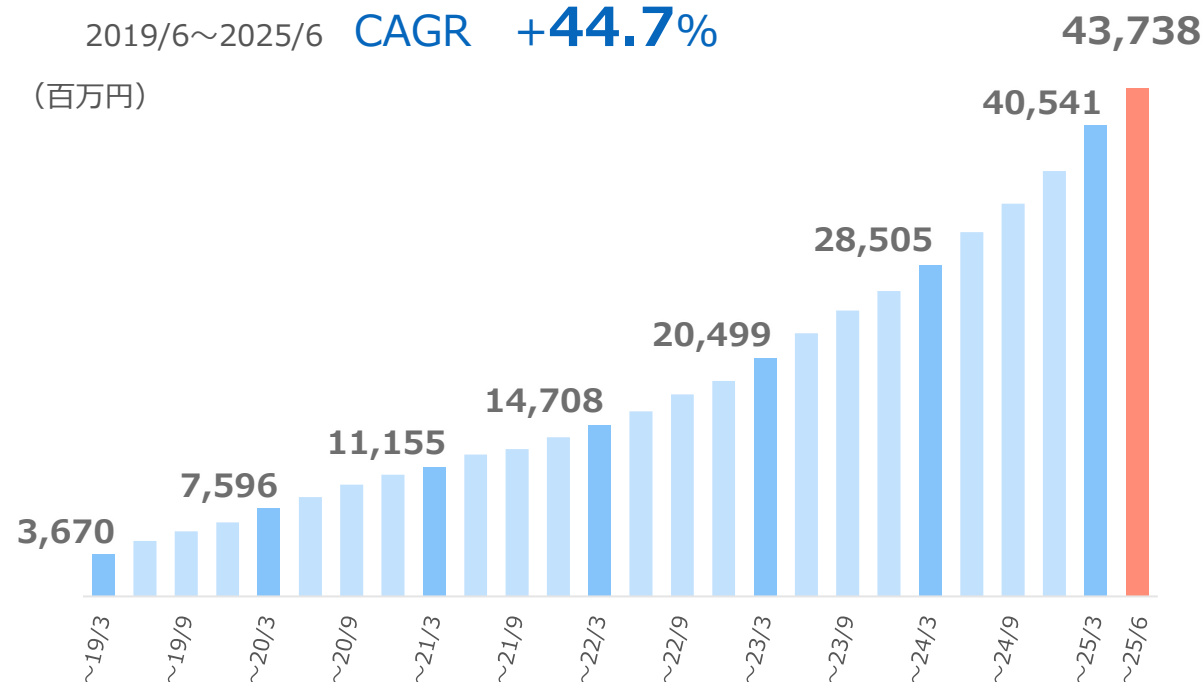


■iKAZUCHI（雷）

12カ月累計取扱高の推移（年額課金等を考慮）

2019/6～2025/6 CAGR **+44.7%**

（百万円）

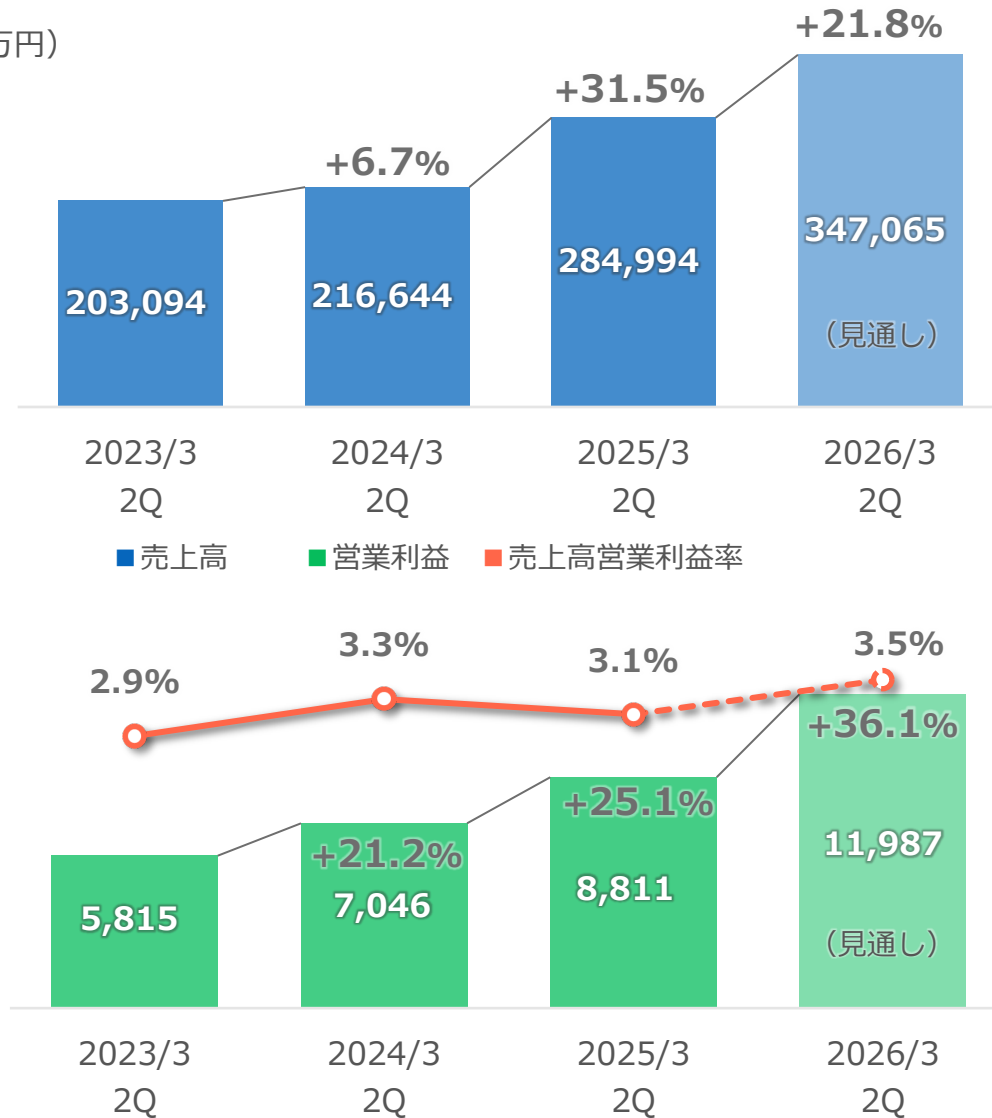


iKAZUCHI（雷）の成長軌道

課金形態として年額での購入比率が高いため、四半
期毎ではなく12カ月累計の推移を見ることで着実な
成長を確認

ITインフラ流通事業 2Q（7月～9月）予想

(百万円)



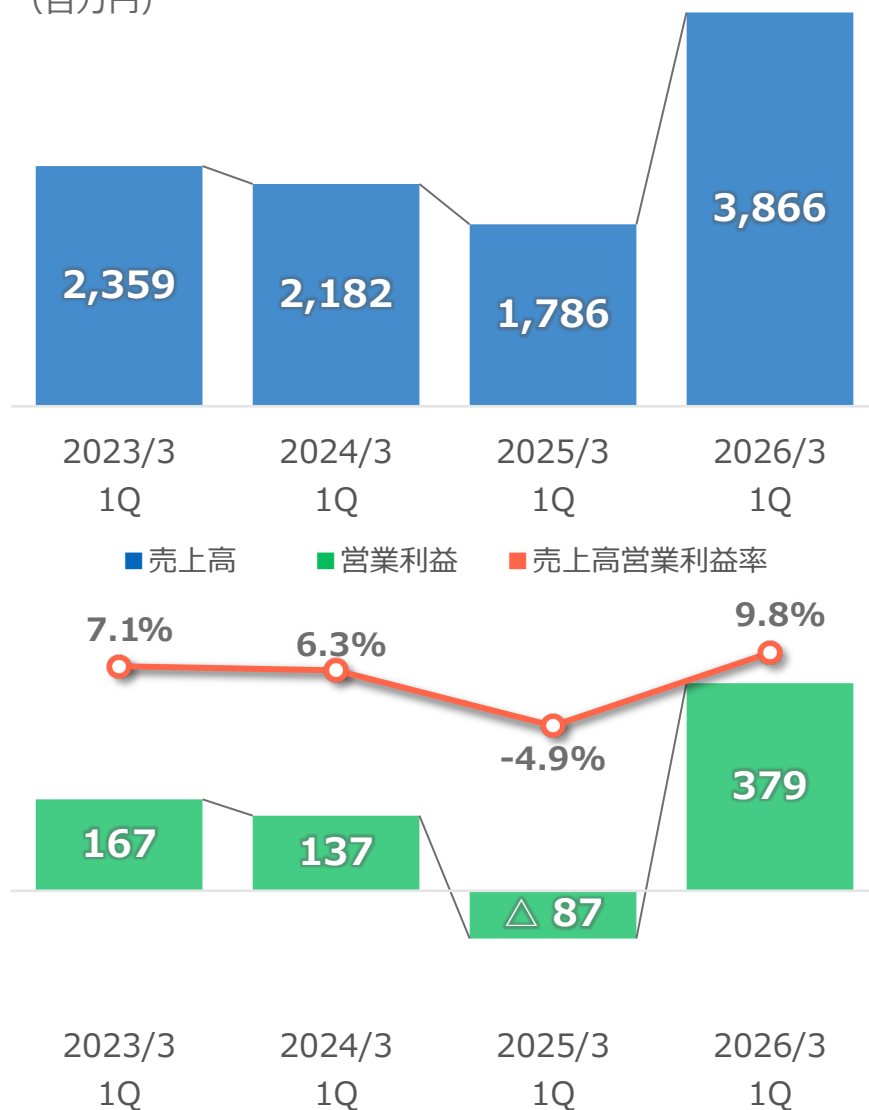
2Q（7月～9月）の見通し

- Windows更新需要
10月のサポート終了直前となり需要がピークを迎える見通し
- GIGAスクール第2期
昨年度末から1Qにかけて獲得した案件について、夏休み期間中の納品が増加するとともに、下期以降に納入となる入札の本格期を迎える
- 営業利益率
前年は複数獲得した大型案件の影響により営業利益率が低下したが、今期は中小型案件の比率が増加しており、営業利益率の水準は継続する見通し

ITインフラ流通事業の季節性について

通常は多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向があるが、今期はPC需要の高まりにより、四半期ごとの業績推移は例年と異なる見通し

(百万円)



売上高

3,866百万円 (前期比+**116.5%**)

営業利益

379百万円 (前期比+**466**百万円)

事業概況

工作機械部門

- 日本工作機械工業会の4～6月受注総額は前期比3.4%増加
当社は主力の航空機業界等、国内受注は回復傾向にある一方、中国市場での受注減が影響し、部門全体の受注高は前期比10.7%減少
- 大型機の売上計上と、サービス分野の体制強化が利益率向上に寄与し増収増益

自動機械部門

- 人手不足解消に向けた省人化ニーズが引き続き堅調、受注高は前期比42.9%増加
- 製品本体の販売台数の増加により前期比で増収増益

2026年3月期 1Q 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)

(百万円)	2025/3	2025/6	増減		2025/3	2025/6	増減
流動資産	407,778	388,108	△19,669	流動負債	267,779	247,115	△20,664
現金及び預金	55,421	19,119	△36,301	支払手形及び買掛金	228,422	214,383	△14,039
受取手形及び売掛金	288,495	278,321	△10,174	短期借入金	8,904	9,304	+400
商品及び製品	45,495	70,544	+25,049	固定負債	20,032	18,576	△1,456
有形固定資産	11,252	12,095	+842	長期借入金	11,799	11,399	△400
無形固定資産	4,973	5,435	+462	負債合計	287,811	265,691	△22,120
投資その他の資産	16,117	14,675	△1,442	純資産合計	152,310	154,623	+2,313
				自己株式	△15,088	△15,542	△453
資産合計	440,122	420,315	△19,807	負債純資産合計	440,122	420,315	△19,807

現金及び預金	55,421	→	19,119	△36,301	製品在庫の増加に伴う現預金の減少
受取手形及び売掛金	288,495	→	278,321	△10,174	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	228,422	→	214,383	△14,039	DISの仕入債務の減少

2026年3月期 1Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)



(百万円)	2025/3 1Q		2026/3 1Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	227,844		290,601		+ 62,757	+ 27.5%
売上総利益	14,759	6.5%	22,099	7.6%	+ 7,340	+ 49.7%
販売費及び一般管理費	10,484	4.6%	12,222	4.2%	+ 1,738	+ 16.6%
営業利益	4,274	1.9%	9,876	3.4%	+ 5,602	+ 131.1%
経常利益	4,528	2.0%	10,111	3.5%	+ 5,582	+ 123.3%
特別利益	0		270		+ 270	—
特別損失	1		0		△1	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,079	1.4%	7,195	2.5%	+ 4,115	+ 133.7%

特別利益

蘇州大和針織服装有限公司の清算終了に伴う清算益

株主還元

2026年3月期（予想）

中間	期末	年間
50円	50円	100円

上限80億円

(2025/7/1～2026/2/27予定)

29.8%

56.4%

1株配当

自己株式取得

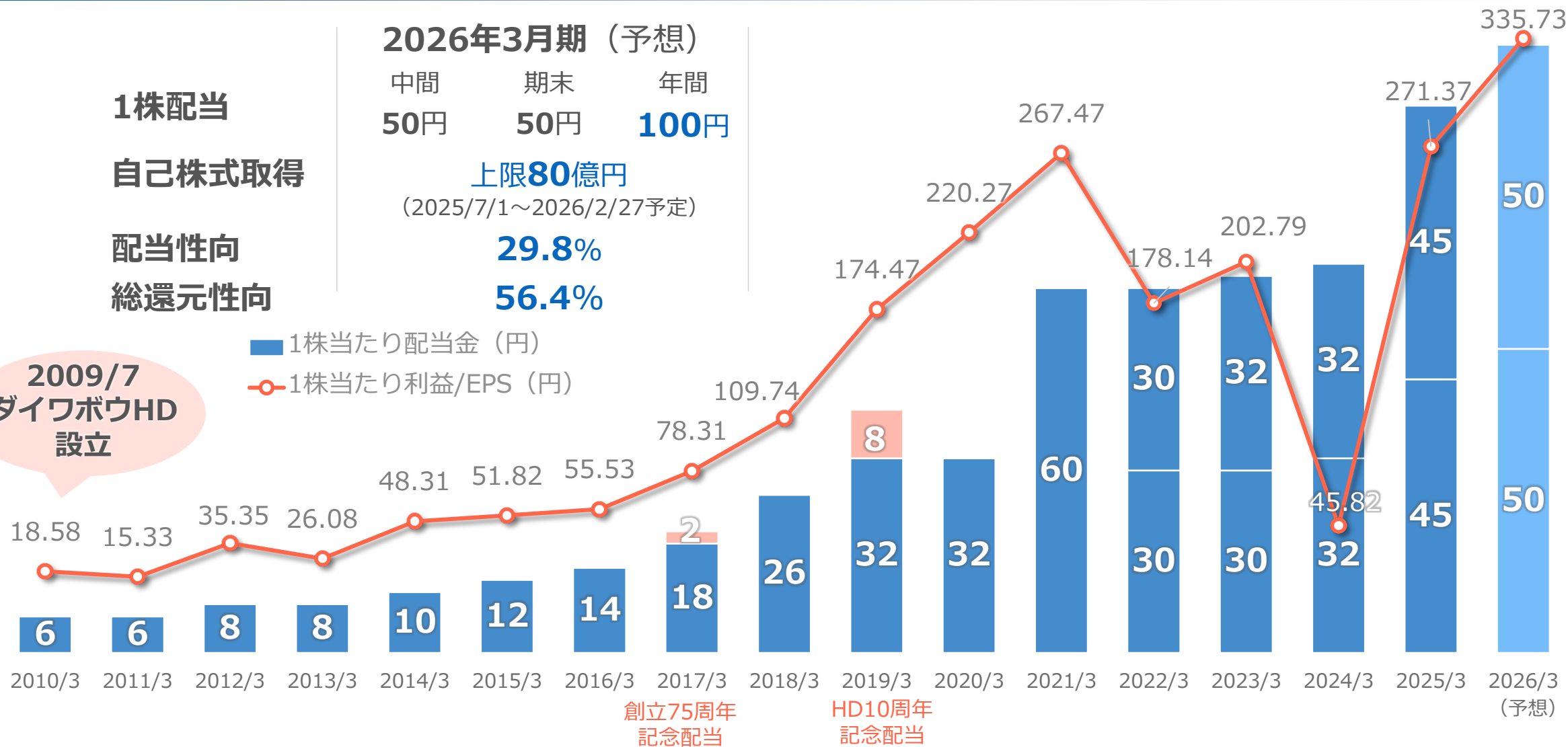
配当性向

総還元性向

■ 1株当たり配当金（円）

○ 1株当たり利益/EPS（円）

2009/7
ダイワボウHD
設立



※株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

参考資料

- 事業概要
- 業績推移グラフ

成長分野でのポジション &バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大

DX推進による パートナーリレーションシップ

- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革
生産性向上の実現
- 先端技術を含む
海外ベンダー拡販による
事業領域拡大

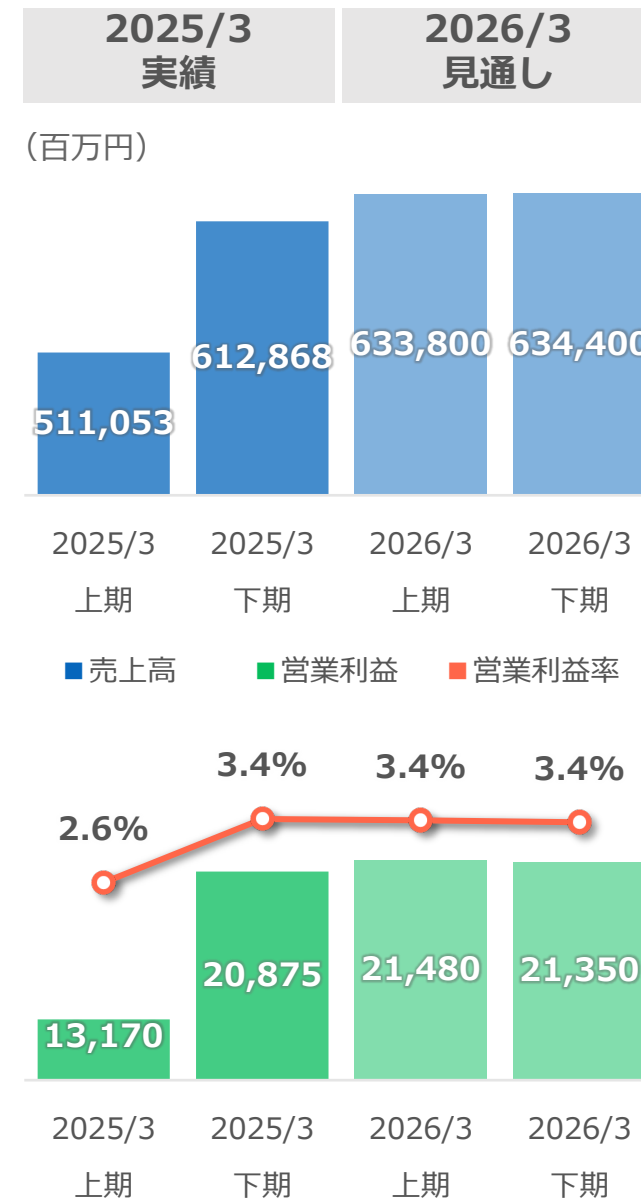


業界リーダー企業として コア領域の深化

- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材
ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

企業ブランディング と戦略的投資

- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資
(システム、M&A、業務提携)
- 業界最適化に向けた投資
(物流機能、iKAZUCHI (雷))



ITインフラ流通事業 四半期別 業績比較

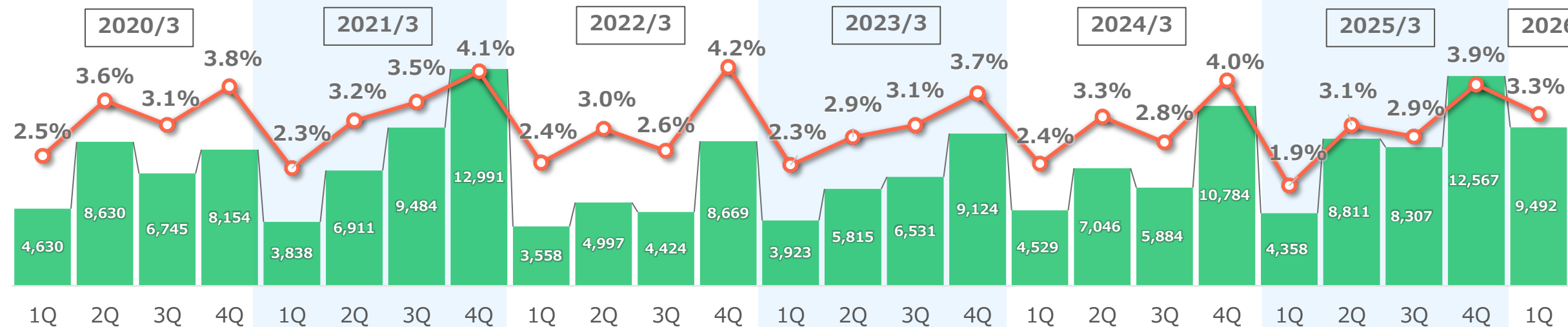
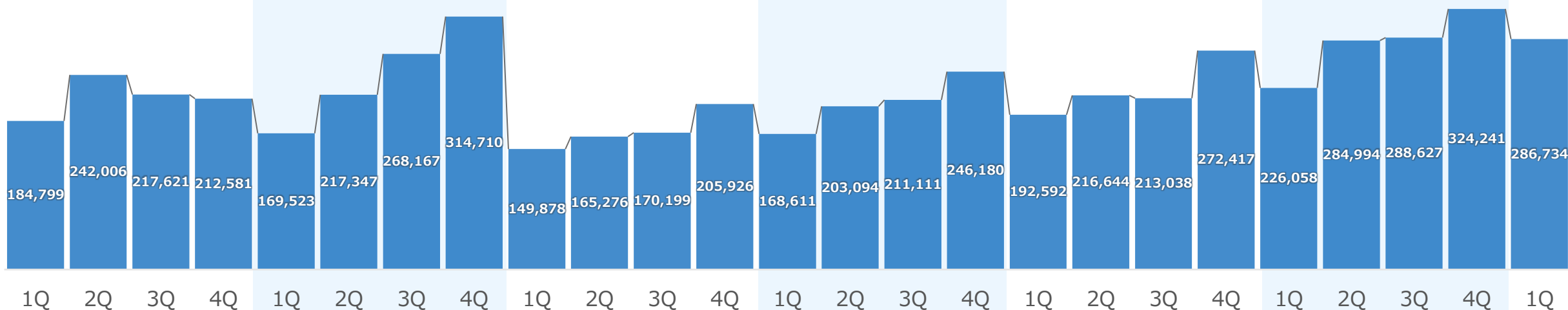
(百万円)

Windows7EOSによる更新需要

GIGAスクール第1期

収益認識に関する会計基準の適用

Windows10EOSによる更新需要



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率

ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み



daiwabo

1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984 多店舗展開

- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

1996/3
1,000億円突破

1999/3
2,000億円突破

2003/3
3,000億円突破

2000
DIS東証1部上場

2012/3
4,000億円突破

2014/3
5,000億円突破

2019/3
6,000億円突破

2020/3
8,000億円突破

2021/3
9,000億円突破

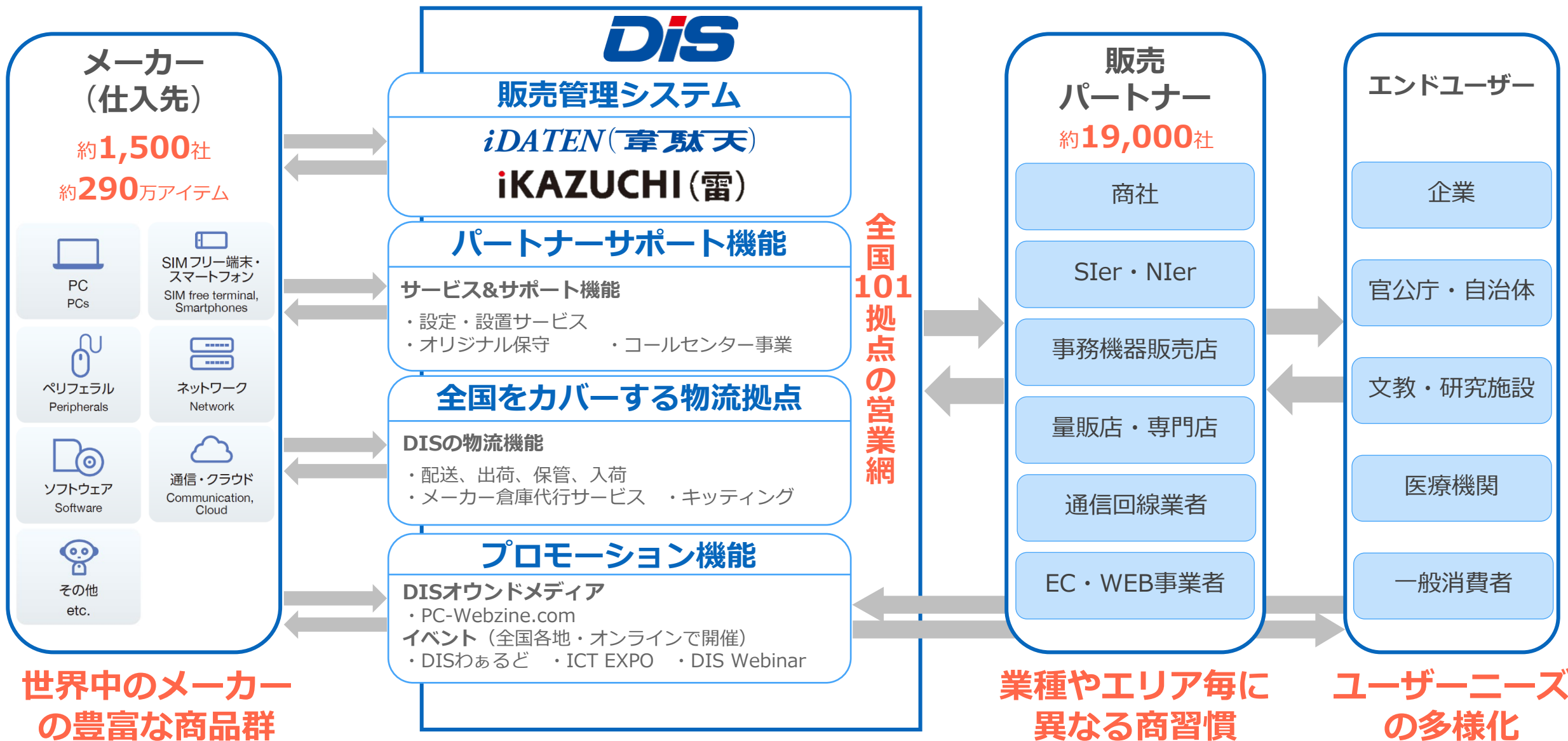
2025/3
1兆円突破

2009
経営統合

- HD体制の「ITインフラ流通事業」として位置づけ

DIS単体
売上高推移

ITインフラ流通事業の事業構造



ディストリビューターの役割と付加価値

メーカー (仕入先)

約1,500社 約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

**DISの営業網を活用し販路拡大・
販売業務効率化**

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズ**を連携し、**メーカーの生産計画やプロモーションに反映**
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約に加えて、キittingや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網を提供**

一本化
協業
代行

DIS
の役割

一本化
協業
代行

全国101拠点
の営業網

物流センター

商品選定・
提案

市場ニーズ
の把握

キitting

保守サポート

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

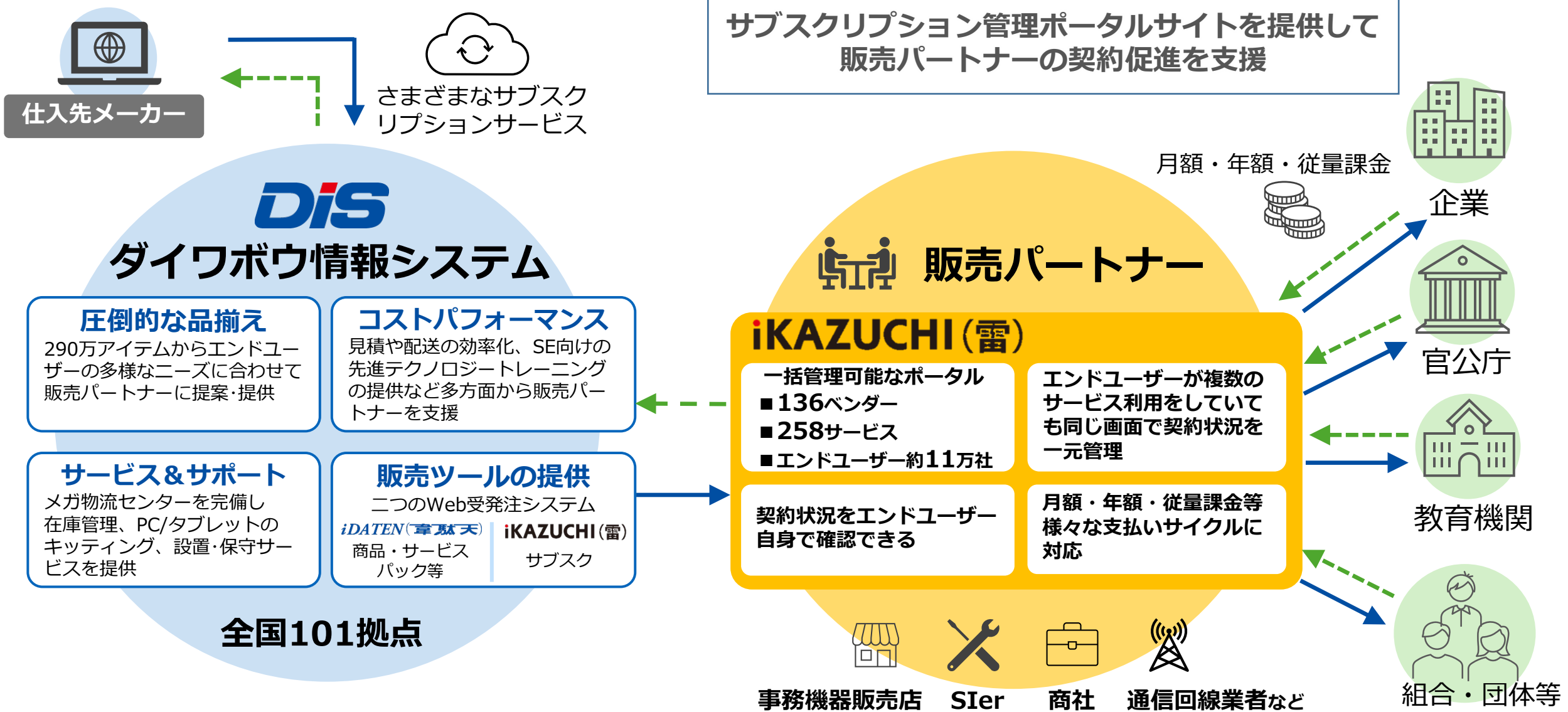
販売パートナー

約19,000社

**DISの機能を有効に活用することで
自社の得意なビジネス領域に注力**

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキittingや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

iKAZUCHI(雷)ビジネスモデル



物流センター効率化

関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化

【ロボット稼働台数】

関東中央：45台、関西：30台

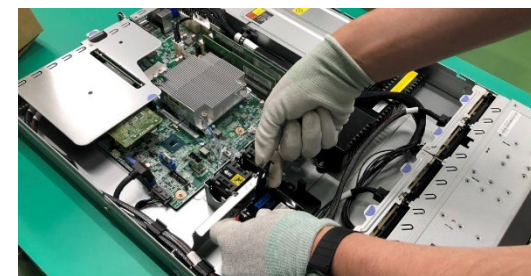
キittingセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット
キitting実績：年間26.2万台
(2025/3期)

トラック予約受付システム

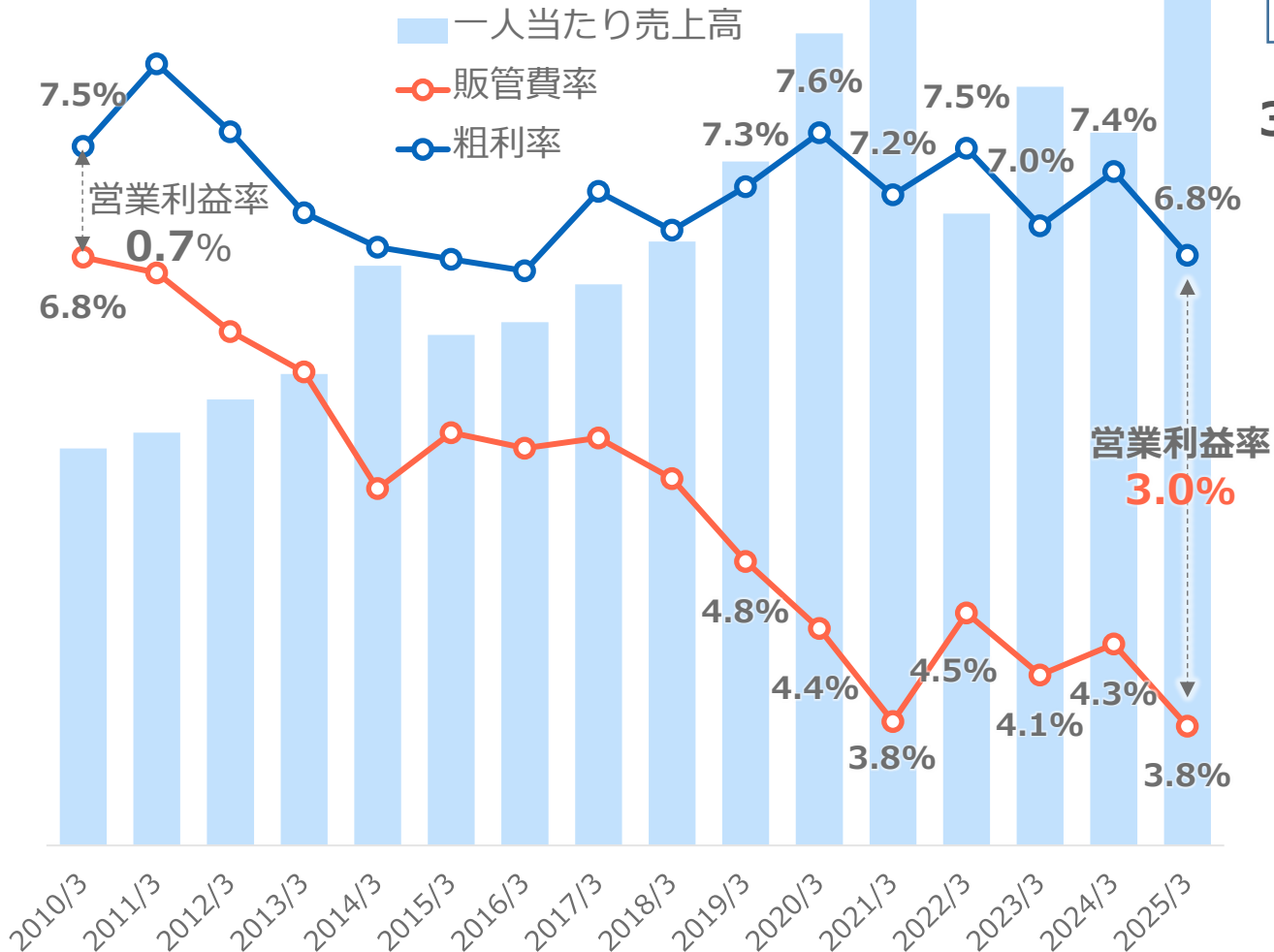
→入出荷情報の共有・車両平準化



東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

営業効率化とローコストオペレーション

ITインフラ流通事業 実績

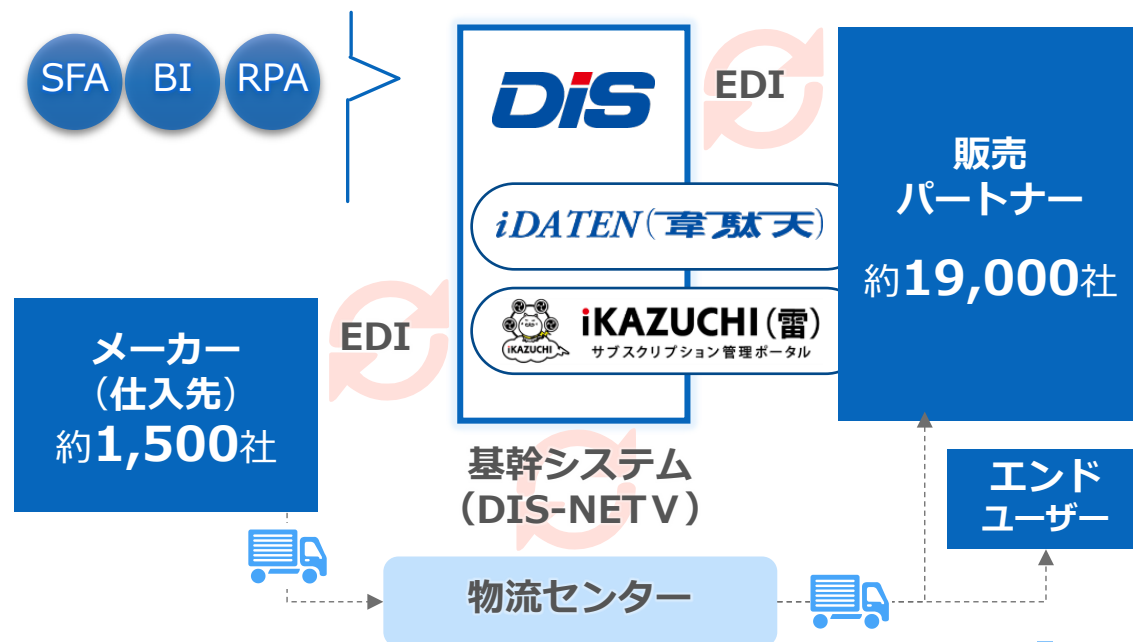


※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3年間で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDIなどの機能強化



(補足) ITインフラ流通事業の「取扱高」について

取扱高

Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価

取扱高

売上高

「収益認識に関する会計基準」

適用による影響額

(2022/3期～)

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

売上高

Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

工作機械における在庫販売戦略

- 長岡工場組立工場増築による戦略的かつ計画的な在庫販売戦略の強化
- 短納期販売を促進し米国・中国市場での売上を拡大
- 海外市場の拡大を目指し、成長が見込まれる地域の市場調査を実施

- 航空機・エネルギー業界に向けた高精度立旋盤の開発と提案の実施

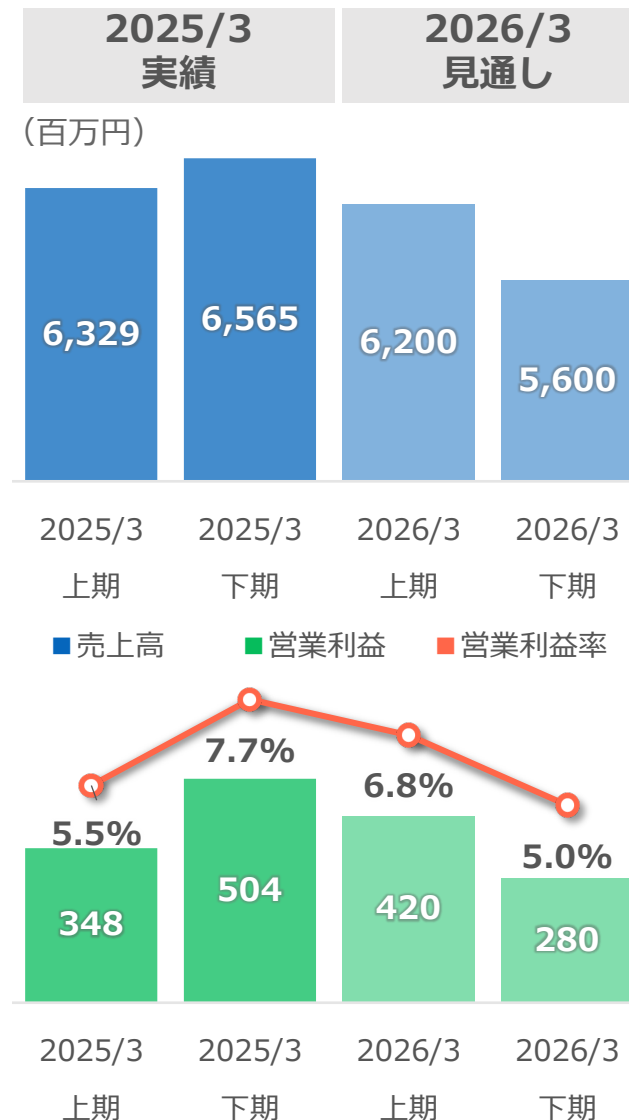
自動機械における収益改善の取り組み

- 受注案件における適切なリスク評価による生産の標準化
- 製造委託推進による原価改善
- 食品・製菓・医薬品業界に向けたニーズに即した提案営業の強化



サービス強化による収益力向上

- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上



※ランサムウェア被害による営業活動の停滞と復旧作業の影響で、26年3月期下期業績が減少予想

立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,700**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

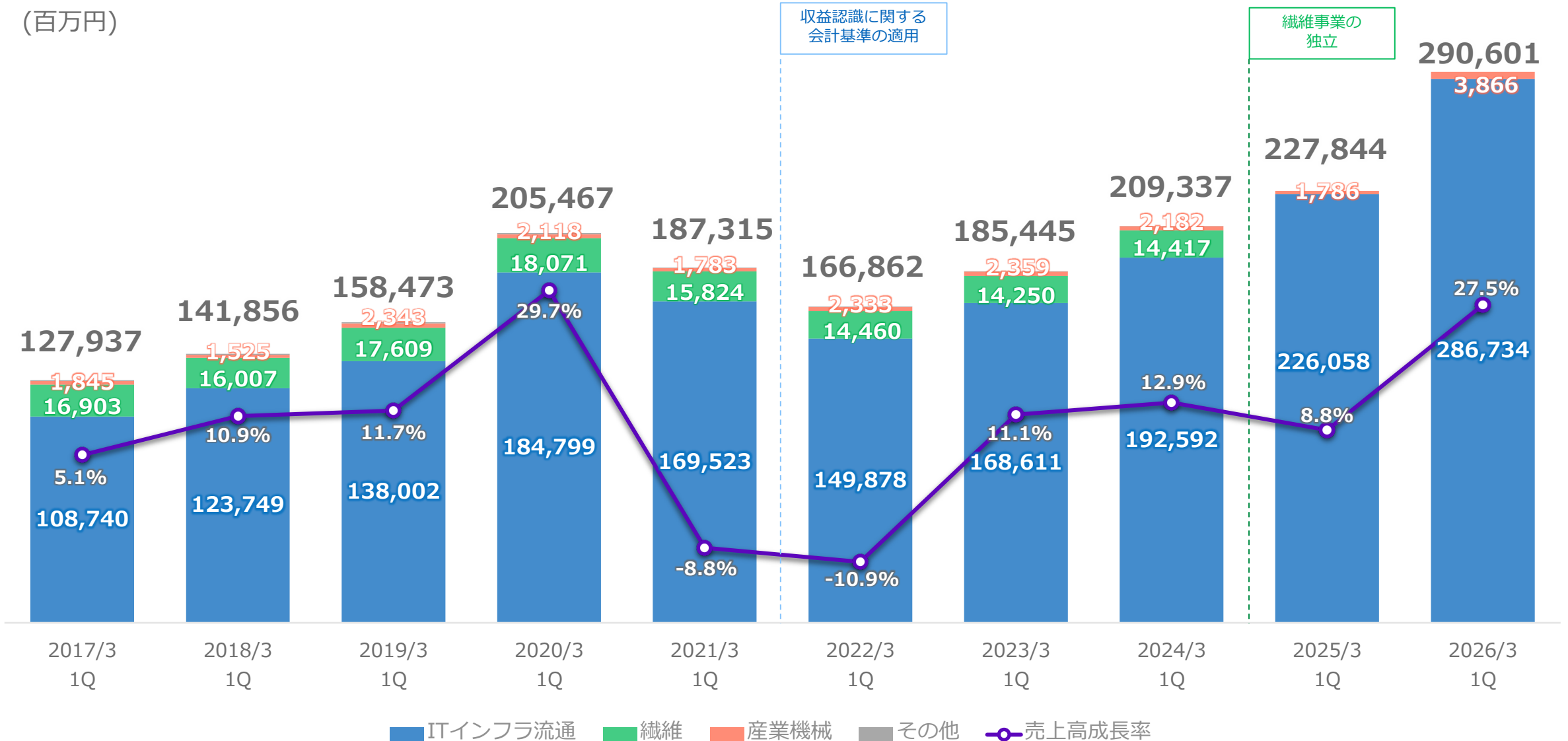
自動機械



- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

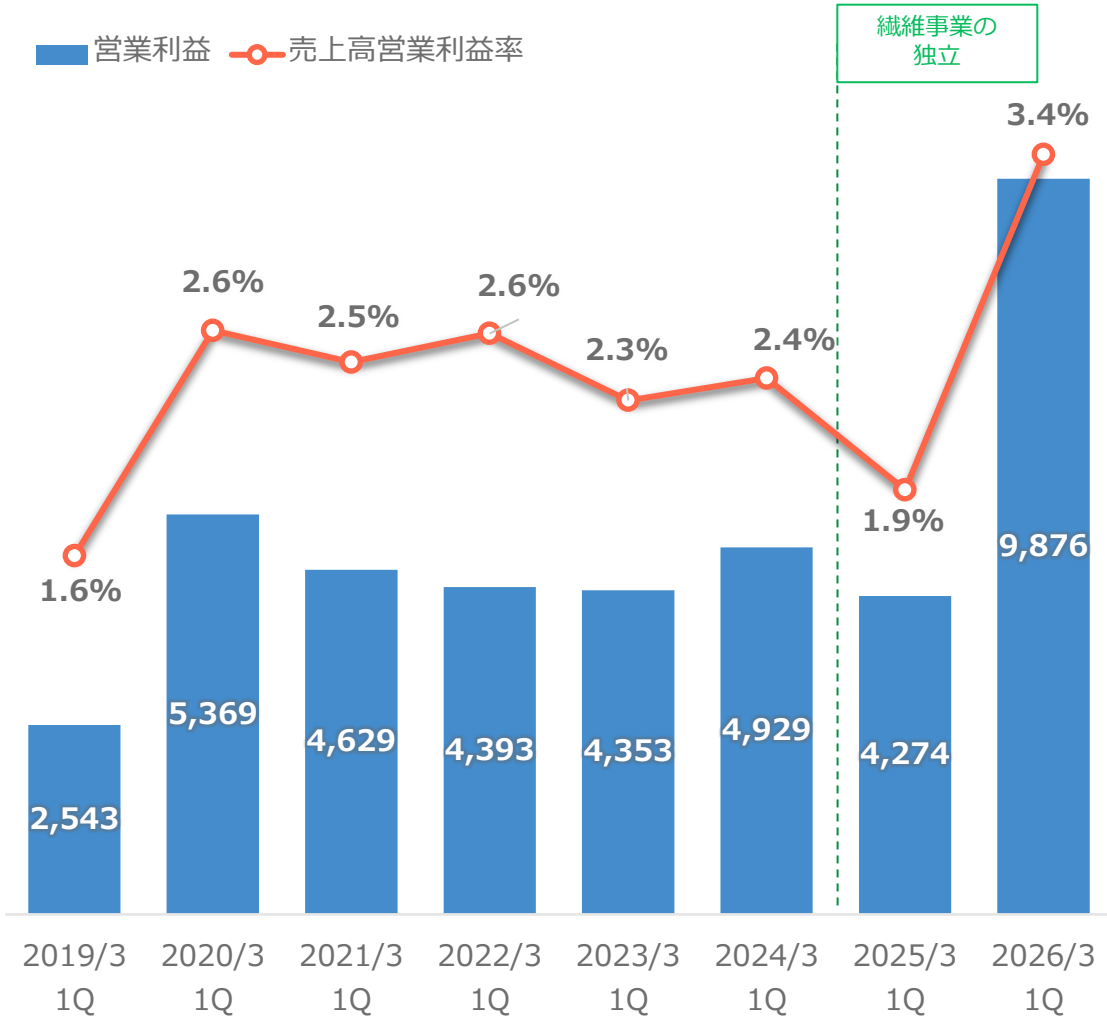
連結売上高（1Q累計期間）

(百万円)

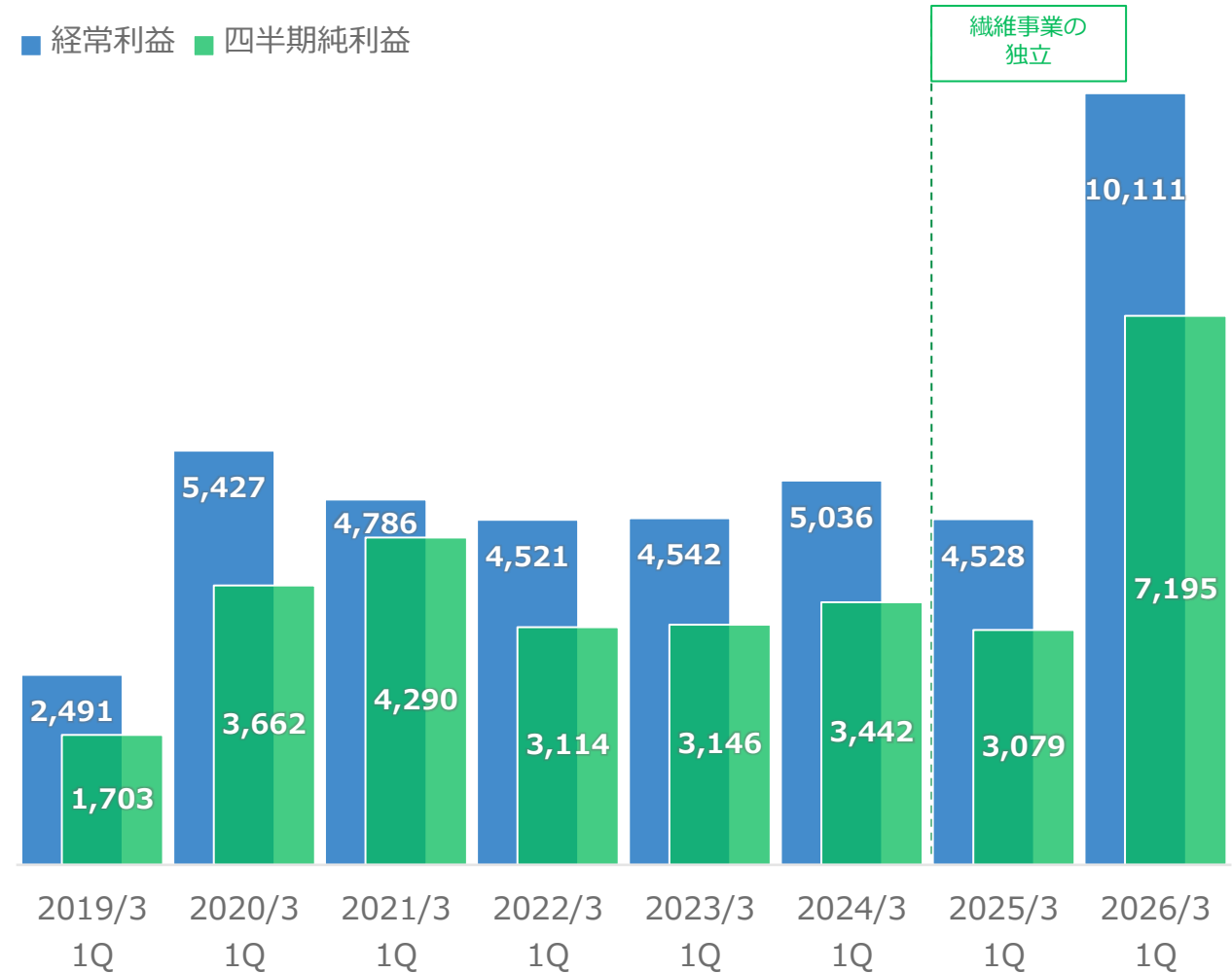


連結営業利益・経常利益・四半期純利益（1Q累計期間）

連結営業利益（百万円）



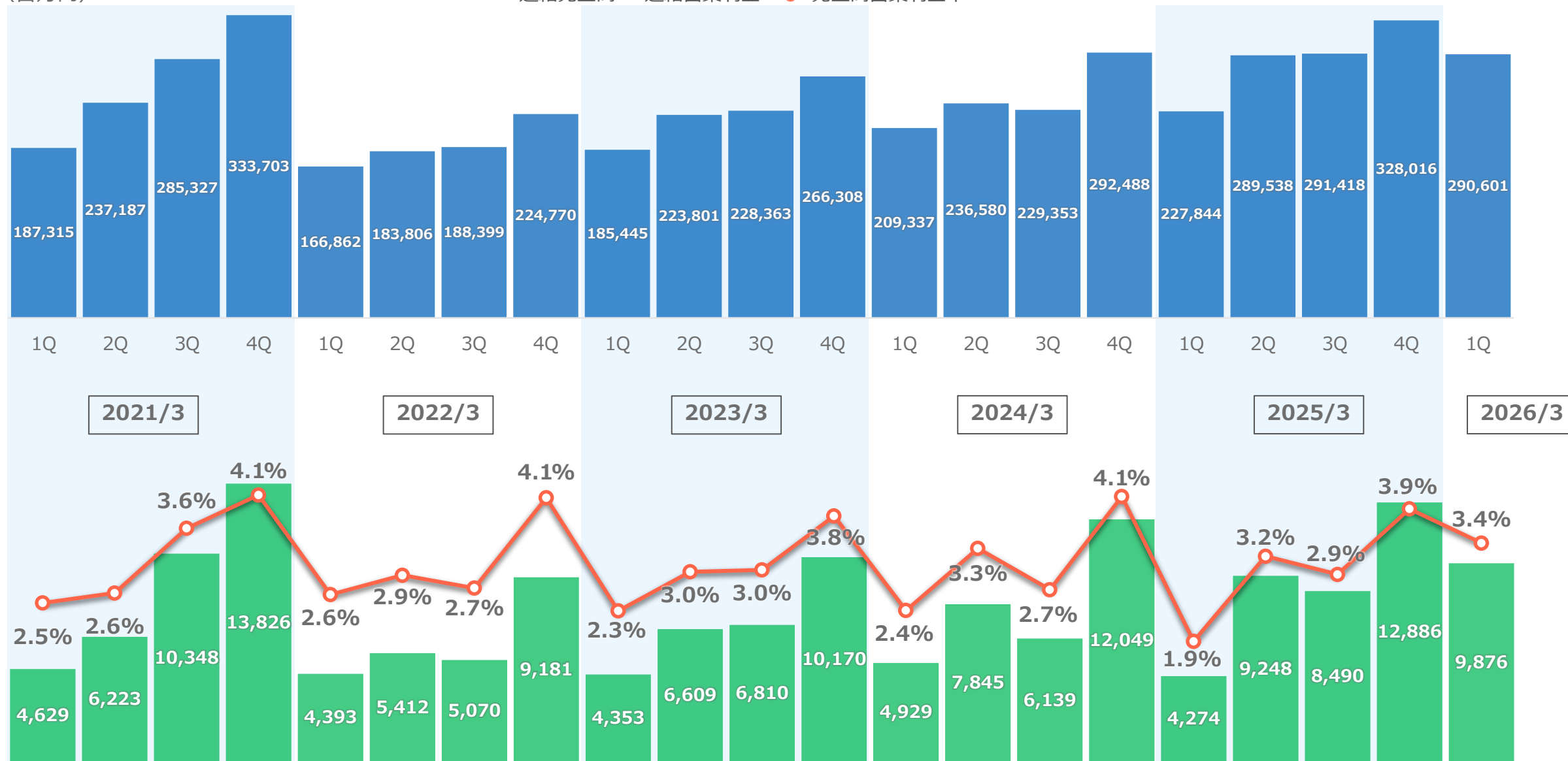
連結経常利益・四半期純利益（百万円）



四半期別業績 推移

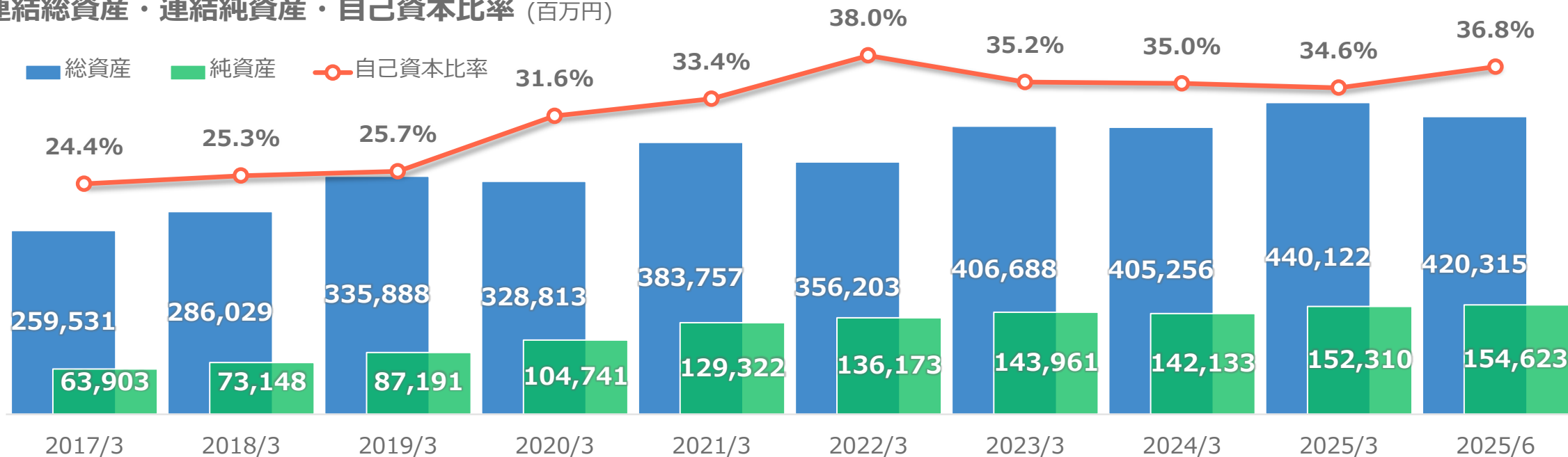
(百万円)

■ 連結売上高 ■ 連結営業利益 ○ 売上高営業利益率

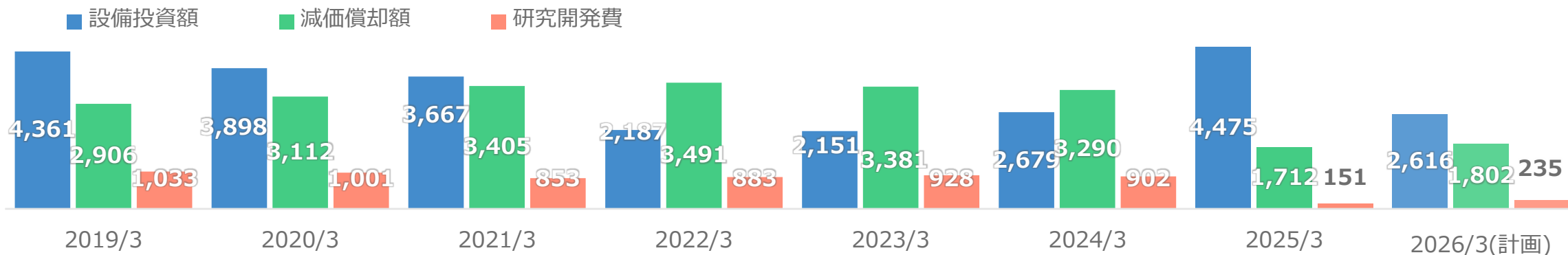


連結業績推移

連結総資産・連結純資産・自己資本比率 (百万円)



設備投資・減価償却額・研究開発費 (百万円)

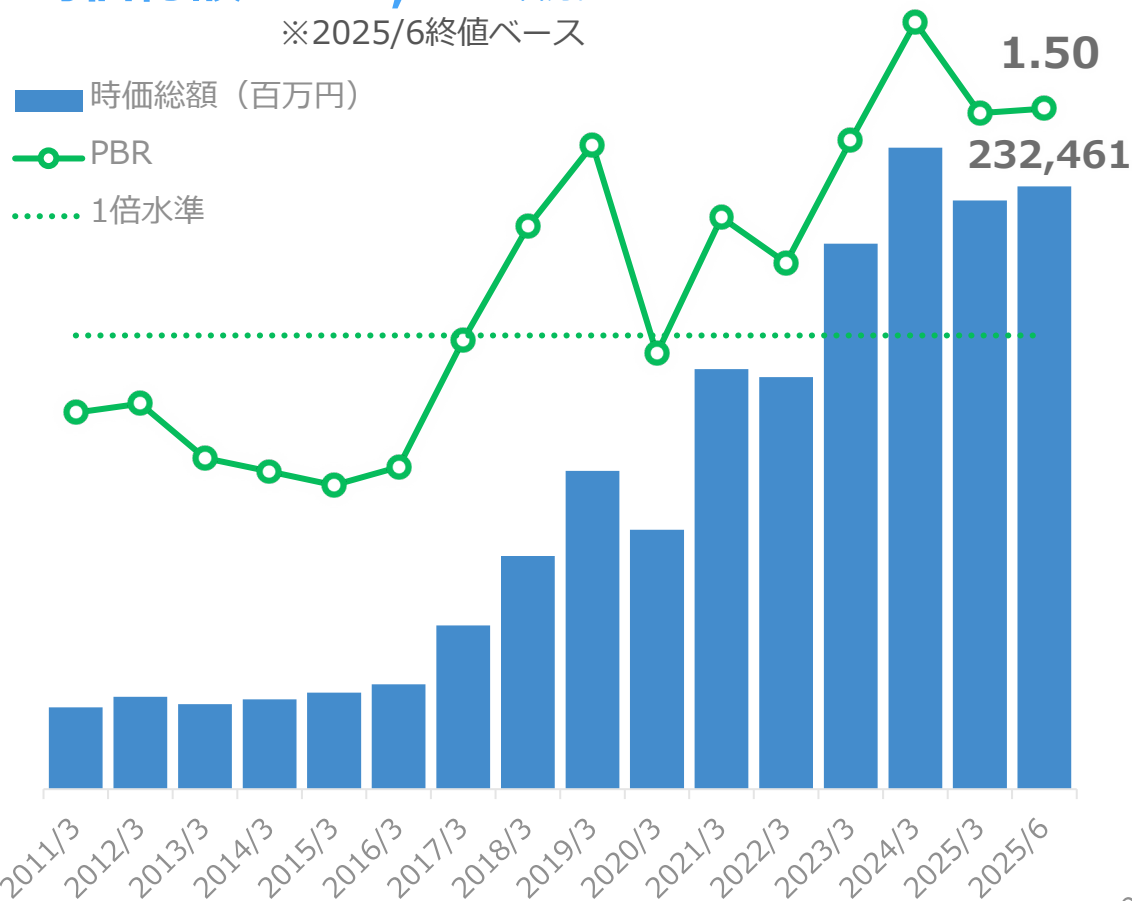


株価推移

PBR 1.50倍

時価総額 232,461百万円

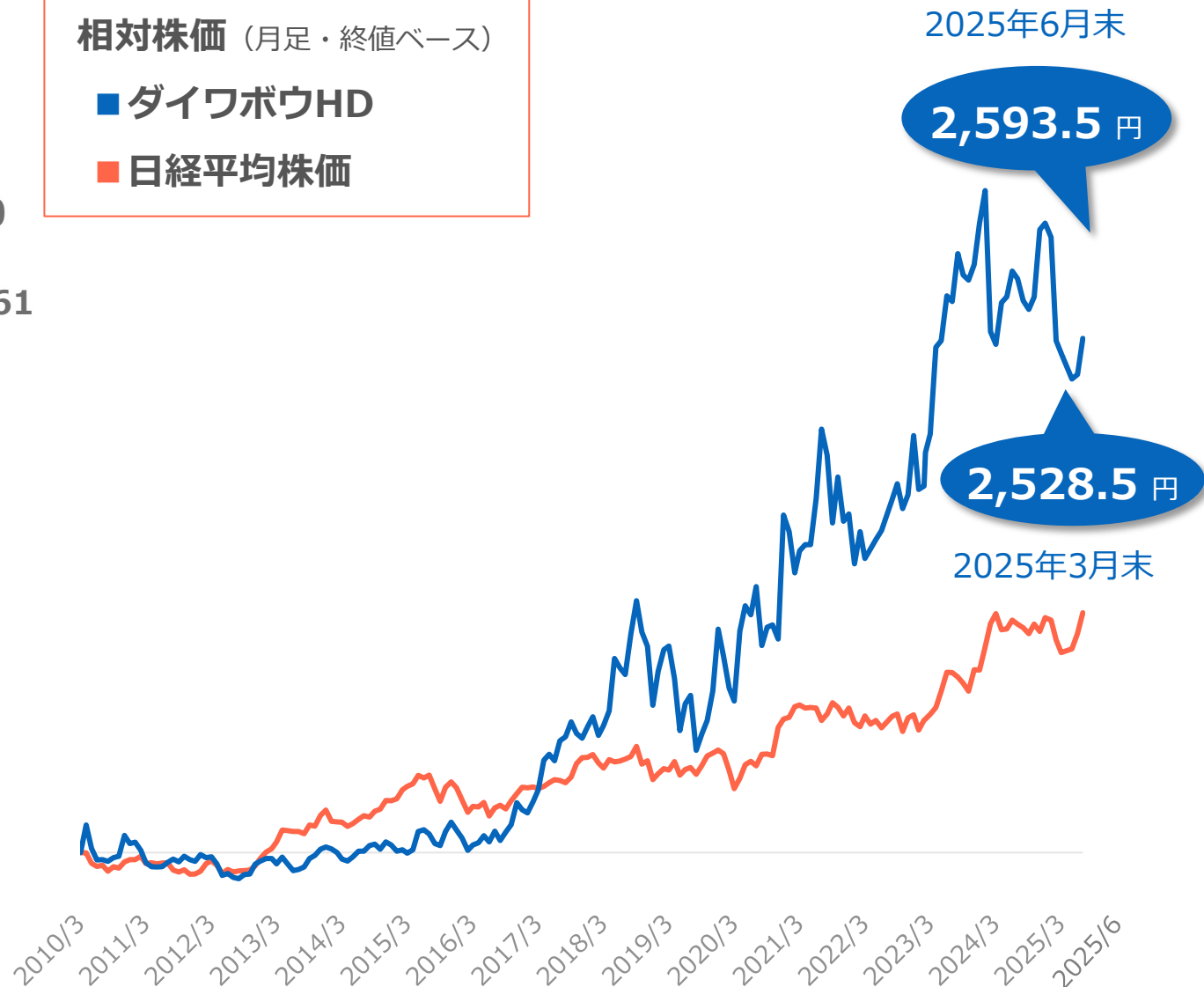
※2025/6終値ベース



(百万円)

相対株価 (月足・終値ベース)

■ **ダイワボウHD**
■ **日経平均株価**

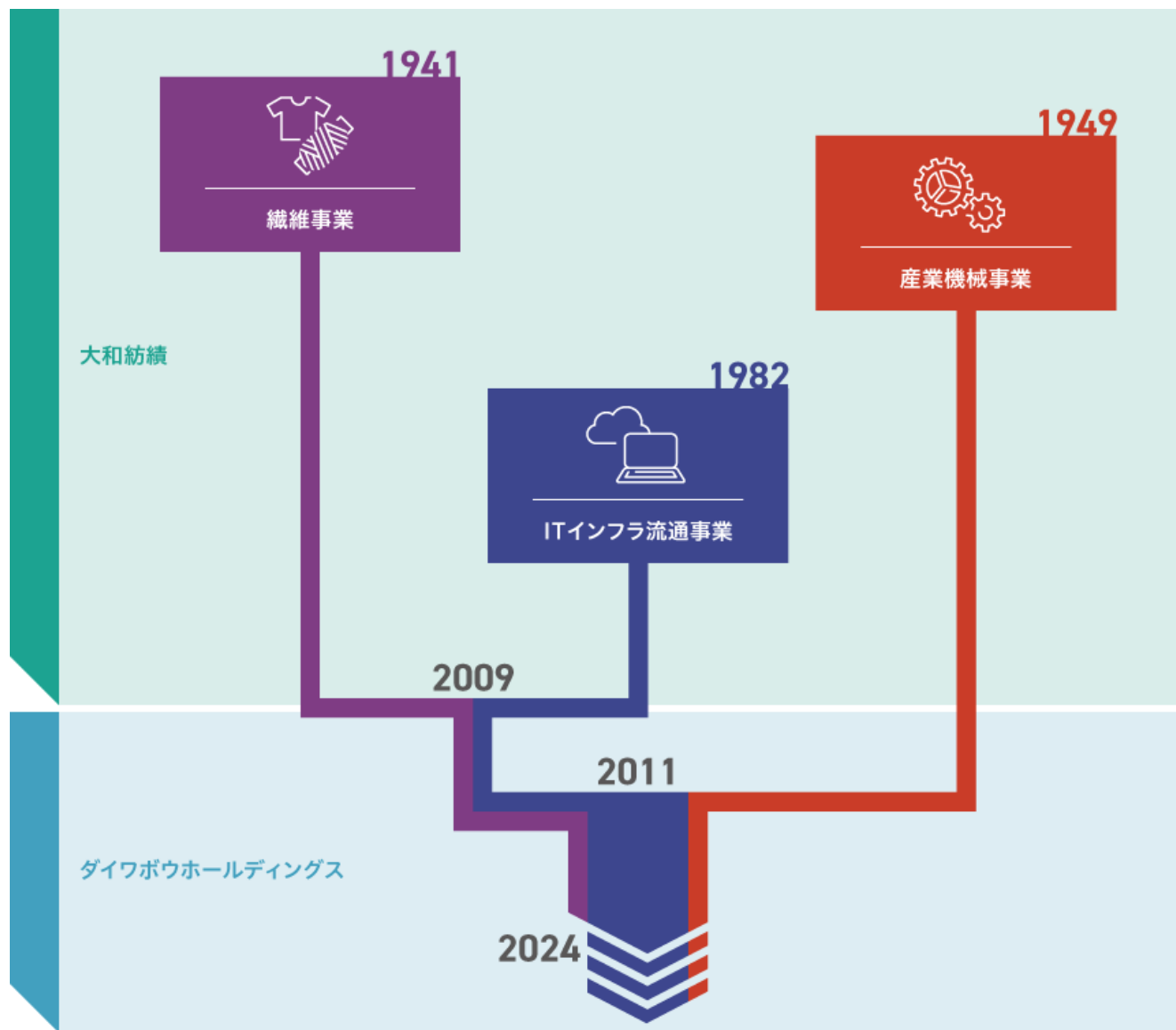


※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト		
設立日	大和紡績として創立	1941年4月1日	
	ダイワボウホールディングス設立	2009年7月1日	
連結従業員数	2,928名（2025年3月末現在）		
資本金	216億9,674万4,900円		
株式	東証プライム市場 証券コード 3107 / 業種： 卸売業 <JPX日経インデックス400構成銘柄>		
事業内容	ITインフラ流通事業		コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	[中核会社]	 ダイワボウ情報システム株式会社	
事業内容	産業機械事業		工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業
	[中核会社]	 オーエム製作所	

※大和紡績株式会社は2024 年 3月27日に独立いたしました。
(発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループ へ譲渡)

グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が穴道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 4 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3 株式譲渡により**大和紡績が独立**



ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。